

コンビニまでの距離と店舗数

## 本県10万人当たり38.4店

営業時間が長く、調理済みの食料品や日用雑貨など必要なものを早朝でも深夜でも購入できるコンビニエンスストアは大変便利です。チケットの予約やキャッシングなどもできるようになってきていますし、情報通信技術などを活用した更に便利なサービスが受けられるようになるでしょう。

近くにあれば何かと便利なこの店は、私たちの住宅からどのくらいの距離にあるのでしょうか。平成10年の住宅・土地統計調査で、コンビニエンスストアまでの距離をみてみましょう。

全国平均では、コンビニエンスストアまで「100m未満」の住宅は全体の13.3%、「500m未満」の住宅は全体の56.9%を占めています。

本県では、「100m未満」の住宅は全体の9.7%、「500m未満」の住宅は全体の47.4%となっています。全国と本県を比べると「100m未満」では3.6ポイント、「500m未満」では9.2ポイント下回っています。

本県の住宅は、全国平均からみるとコンビニエンスストアまでの距離が遠いという結果になって

いますが、店舗数はどうでしょうか。

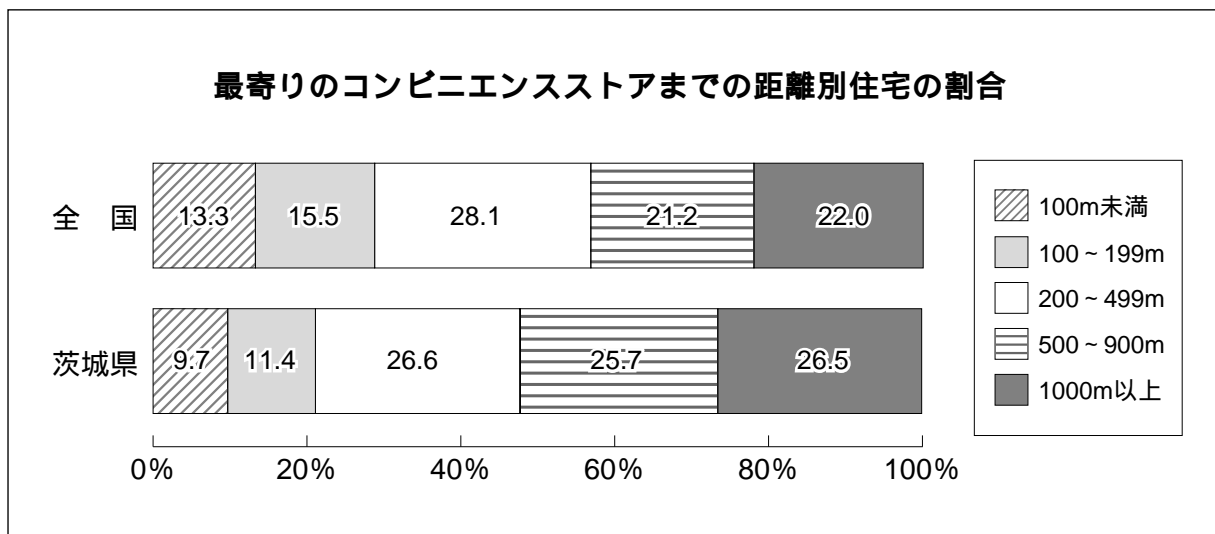
コンビニエンスストアの店舗数を平成9年の商業統計でみてみると、全国では36,631店で人口10万人当たり29.0店です。本県には1,144店あり、人口10万人当たり38.4店で、人口10万人当たりでは全国平均を上回っており、店舗数が原因ではなさそうです。

では、居住形態はどうでしょうか。例えば、県庁所在地の人口が県全体の人口に占める割合を見ると、水戸市は8.3%で、浦和市（6.7%）に次いで少ない方から2番目となっています。

このように、本県は地形が平たんで可住地面積が広いので（3,914km<sup>2</sup>、北海道、新潟県、福島県に次いで全国第4位）、特定の地域に人口が集中することなく、県内全域に広く分散して居住しているという特徴がみられ、このことが、住宅からコンビニエンスストアまでの距離に影響を与える一因となっているように思われます。

（県統計課）

平成12年6月10日掲載



「ふるさとおもしろ統計学」は第2，第4金曜日（6月より土曜日）、茨城新聞に掲載されています。

本県の電力消費量

## 97年度は2万3000GWH

最近では、どこの家庭でも冷蔵庫やエアコンが普及したお陰で、どんなに暑い夏でも快適に過ごせるようになりました。

しかし、より快適な生活を求め、維持するためには、当然それに必要となるエネルギーも多くを要することになります。本県の電力消費量は、平成9年度で2万3千GWHであり年々増加傾向にあります。また、月別の電力消費量は、これから夏本番を迎える8月にピークを迎えます。

わが国の電力発電は、約6割を石油等の化石燃料による火力発電に頼っています。石油は今のペースで使い続けると約40年で使い尽くしてしまうようで、このことを懸念して、以前から省エネが叫ばれてきました。最近では、化石燃料を燃焼した際に発生する二酸化炭素などが、大気中の赤外線を吸収して地球表面の温度を上昇させ、その結果、海水の膨張や北極・南極の氷が溶けることによる海面の上昇や異常気象の頻発等が生じ、環境に影響を及ぼす、いわゆる、地球温暖化の問題を生じさせています。

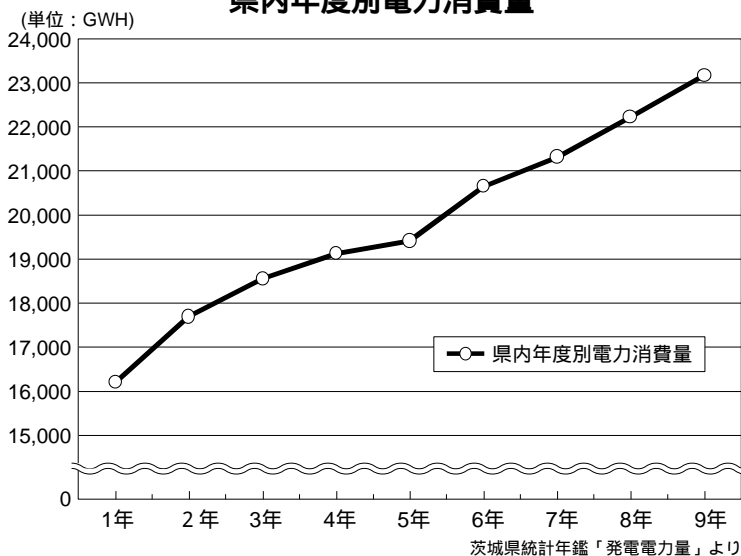
このため、地球に負担をかけないクリーンな代替エネルギーの開発とともに、私達の生活レベルでも、エネルギー消費の節約が大切です。例えば、冷蔵庫を効率的に使用することにより、全国の家全体で、ドラム缶55万本分の原油に相当する年間のエネルギー使用量を、また、エアコンの冷房温度を28位に設定することで、190万本分のエネルギー使用量をそれぞれ抑えることができると試算されています。

地球温暖化などの問題は、私たちの子供や孫たち、これからの世代に、その影響が及びます。環境庁の提唱により、6月を環境月間として、環境保全の運動が全国的に展開されているところですが、6月だけに限らず日ごろから省エネなどを意識した生活を心掛けてみませんか。快適な生活を次の世代にも引き継ぐために。

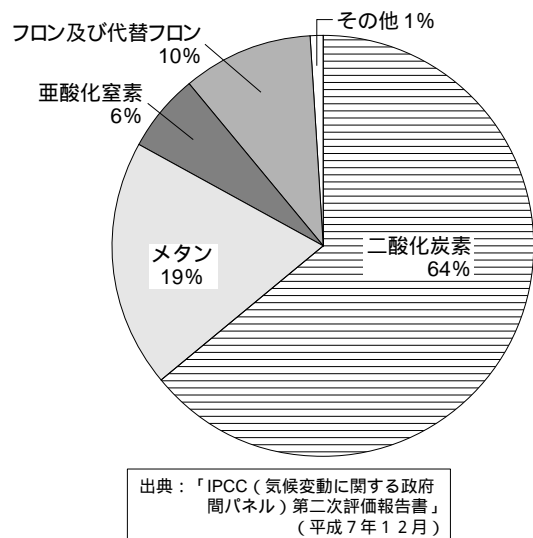
(注) 1GWH(ギガワットアワー) ...100万KWH  
(県統計課)

平成12年7月1日掲載

県内年度別電力消費量



温暖化への温室効果ガスの寄与率



「ふるさとおもしろ統計学」は第2, 第4金曜日(6月より土曜日), 茨城新聞に掲載されています。

